



ロータリーの友
地区委員

露口 佳彦

(大阪西南R.C.)

4月はロータリー雑誌月間です。国際ロータリー(RI)の公式機関誌であるロータリアン誌「THE ROTARIAN」及び各国で発行している地域雑誌(「ロータリーの友」など)購読とその活用促進に役立つプログラムを行うのが「ロータリーの雑誌月間」です。雑誌に対する認識を深め、それによってロータリー情報の普及をはかることが目的とされています。

RIの初代事務総長チェスリー・ペリーによって創刊された公式機関誌「ザ・ロータリアン」の発刊日1911年1月25日を記念して、当初は1月25日を含む1週間を雑誌週間としていましたが、1978～79年度から「雑誌週間」は4月に移され、1983～84年度にすべての特別週間が特別月間となり、1984年4月から4月が「ロータリー雑誌月間」に指定されました。

RIの地域雑誌の要件を満たし、RI理事会が指定した雑誌をRI公式地域雑誌と言い、ロータリアンは「ザ・ロータリアン」又は公式地域雑誌の有料購読義務者となり、会員である限り購読を続けることを会員身分の保持の条件と定められています(標準ロータリークラブ定款、国際ロータリー細則)。RIによる地域雑誌の認定基準は2カ国又は2地域で発行されること、出版について雑誌委員会の監督をうけることや、編集内容、方針、発行回数、経営資金など9項目のきびしい基準が設けられています。「ロータリーの友」は1980年7月から日本の公式雑誌として指定されました。

大谷ガバナーは昨年7月に就任されるにあたり、ガバナー月信7月号においてジョン・ケニーRI会長が今年度のテーマを「ロータリーの未来はあなたの手の中に」とされたことを受けて、第2660地区においても一人一人のロータリアンがロータリーの中核をなす価値観を見につける必要を感じ、地区のテーマを「ロータリーを身につけよう」とされ、その価値観とは「奉仕」「交友」「誠実さ」「高潔さ」「多様性」「寛容」「リーダーシップ」であるとされました。そして本年1月のロータリー理解推進月間に当たり、月信で

「ロータリー理解推進月間になすべきことは、ロータリーに関する知識を広めたり深めたりすることですが、それよりも理解しようとする心、学ぼうとする意欲を身につけることが大切です」と述べられています。この意欲に応えるのが「ロータリーの友」です。

まずRI会長のメッセージにより、RIの目指すところを知り、RI指定記事ではポール・ハリスのロータリーに対する根本的な考え方を学び、ポール・ハリスの妻がロータリーの良き理解者であり、後に女性会員として認められるようになったことに大いに貢献したこと、また4つのテストの生れといきさつを知り得ました。

また日本のロータリアンがロータリーないしロータリアンのあるべき姿についてまじめな考え方を持っておられることを知り心強い想いをしました。

ロータリアンの浄財の據出によってなりたつロータリー財団がロータリアンの奉仕活動を資金的に支援している関係や米山奨学金制度が日本の大学や大学院に学ぶ外国人留学生に資金を援助し、国際親善に役割を果たしていることなど、また日本国内や外国での様々な形の奉仕活動のあり方、民族、宗教、政治的信条などの相異から起こる紛争、殺戮、その他厳しい自然の環境で生存するのに困難な状況下で生きて行かねばならない人々の存在、そのような地域での奉仕活動のあり方など様々な知識情報を伝えてくれるのが「ロータリーの友」です。またそのような厳しい自然的環境ではない日本における奉仕活動についても地域の福祉施設への寄付といった形だけでなく、地域の人たちとの交流が出来る形の奉仕の模索、極めて少人数の会員クラブの運営のあり方など色々考えさせる記事が多く掲載されています。ロータリーを身につけるためにロータリーを学ぼうとする意欲をもって「ロータリーの友」から色々な知識、情報を得ることによって奉仕の実践、理解と親睦を深めるためのヒント、アドバイスが得られるものと考えております。